

(2) 学年通信の中の総合人間科報告

——中学1年学年通信より——

中村 明彦

【抄録】 総合人間科について保護者の理解を深めてもらうために、学年通信で総合人間科について、数多く触れた。感想・意見等を掲載したそのまとめの報告である。

【キーワード】 総合人間科への外部評価、フィールドワークの感想

I はじめに

学級・学校の様子を家庭へ連絡するひとつの手段として学年通信を定期的に発行する意義は、色々なところで評価されている。その中で、総合人間科について保護者の理解を深めてもらうためにも、この学年通信に総合人間科についても数多く触れてみた。中学1年の総合人間科のテーマ「生き方を探る」取り組みを実践していく中で、経過報告とともに、同級生の感想・保護者の感想意見などを公の学年通信に報告発表していきました。ここでは、学年通信に掲載した内容をまとめたものや実物の報告である。

II 総合人間科の記事等

「学年通信17号」総合人間科スナップ写真への補足

訪問調査の悪い例の寸劇を見た感想

- 今日やった劇のおかげで、どのように質問すれば良いか、聞き方等が良く分かりました。劇も面白く、頭に入った。変な劇で面白かった。
- 「面白い劇だなあ」先生がやってくれた劇を見て最初にそう思いました。でも、「いざ 訪問となると私も、悪い例みたいになるかもしれない。緊張して何も言えないかもしれない。」という不安が私の心にあります。でも、先生方の例を見て、「ああいう所は、こうすれば相手も喜ぶのだ。」「あの所は、こうすればよくなるんだ」と思いました。
- とても楽しい劇だった。笑いながら「どういうことをするのか。」「どういうことをしないか。」ということが分かった。先生が、あんな面白い劇をしてくれるとは思っていなかった。返って面白いほうが色々なことを覚えられていいと思う。
- 悪い所が等がすごく良く表されていて、どうすればよいのかが良く分かった。まとめやすく話を進めてくれたので、良く分かった。身近な人の接し方が分かった。

○実際の様子が良くわかった。ただ話を聞くだけじゃなくて実際にやってくれると分かりやすい。電話の仕方、当日の様子が分かりやすいと思う。

○「あのようにやってはいけない」というのが良く理解できた。

○アドリブとかでやっていてとても面白かった。あくまでも“総合人間科”という授業内でやったから、総合人間科という授業が楽しくできた。劇が良く理解できた。この劇の直したら良かったところを直して、しっかりと計画立ててから実行したい。

「身近な人との出会いから学ぼう」と題した

フィールドワークの感想

(例1) 小学校の恩師を訪問した生徒の感想。

僕は、岸本先生の話を初めて聞いたとき胸がジンとしてとても感動しました。まず、お父さんがトロッコによる事故で片足を失ったこと。交通事故にあった弟さんの植物人間状態からの奇跡の生還。院内学級での教え子の死。大分の田舎で初めて電話が通じた時の話。学生時代の柔道部の話。教育実習生時代の話など数えきれないくらいあります。岸本先生に出会っていなければ、今の僕はいません。

先生は、心の中の苦しみや痛み、障害を持つ弱い立場の人の気持ちを本当に理解している思いやりのある優しい先生だと思います。先生が通ってこられた貴重な体験とインタビューした内容を大切にし“心の宝物”として大事にしていきます。小学校に在学中先生はいつもぼくたちと一緒にでした。障害児の学年での行事の時、先生は涙を流してその子に拍手を送っているように僕は見えました。罰当番での掃除の時もその子だけにやらせないで、先生も一緒に汗を流して、雑巾がけをしました。先生から僕は、思いやりと優しさを心から教えて頂いたと思っています。そして生きる力を学びました。

(例2) お婆ちゃんを訪問した生徒の感想

お婆ちゃんを調べて、生き方や考え方でわかったというより感じたことは、人間は皆つながっているということである。もし娘がいなから絵の先生にならなかっただろうし、所長さんがいなから途中で止めてしまっていたかもしれない。「生きる道」の中で、誰か一人存在しなかつたら、別の方向に向いてしまうかもしれない。こんな「生きる道」はすごいと思った。それにその一人一人がまた別の人間と出会って、どんどん広がりが大きくなっていくことはすごいと思った。また、たった一匹の昆虫、1匹の犬、猫なども「生きる道」を持っている。私は今までそんな事を考えたこともなかった。また、今はまだはっきりとした夢を持っていないが、お婆ちゃんが出会った夢に向けて頑張ったように、自分も最後に残った自分にあった夢にむかって頑張りたい。生き生きしたお婆ちゃんの話に、自分も大人になったらこのように生き生きと自分のことを話したいと思った。戦争のせいで大学に行けなく、代わりに植物の名前を沢山覚えたおばあちゃんを尊敬したい。この授業では何かを目的として頑張ることが一番だと思った。おばあちゃんには人間として一番大切な生きる道すじを教えてもらったと思っている。

「学年通信12号」訪問された大人からの感想

①総合人間科の授業に対する感想

- ・人は学校で学問する以外に如何に生涯を日々向上のための努力をしているかということを、今から教えられるのは大変良いことだと思います。
- ・生徒自身もとても興味があるようで、いろいろと工夫して取り組んでいる様子を感じられました。普段の授業だけではなかなか出来ない社会勉強として、生徒自身が何かを見つけられる良い機会だと思います。
- ・大変興味深いことに取り組んでいると思います。1年生の課題である「人の出会いから生き方を学ぶ」は本来学校の授業ではなく、生活の中でしたきたことのように思いますのでより深い成果を期待します。

②生徒の質問に対する感想

- ・今回総合人間科の授業ということで子どもからの質問には正直戸惑いました。今まで子どもから何かを尋ねられても真剣に答えを返していなかったということがよく分かりました。子どもが成長するにつれていろいろと複雑な質問も出てくることだと思います。その都度人生の先輩として出来るかぎり的確な答えでアドバイスしていきたいと思います。

・今回の授業で、子どもが母親のことを知りたいと思ったことで、今まで余り真剣に自分自身の子どもの時のことや学生時代の話を聞かせることが無かったので、私自身昔を懐かしく思い出すことができ、本当に月日の立つのは早いものだと痛感いたしました。

③訪問調査に対する感想

- ・先生方の仕事以外生徒達が触れる事のできる仕事は少なく、まして企業では具体的に何をしているのか大学生でもなかなか想像できないと思います。そういう意味でも今回の試みは生徒にとって、日頃接することの出来ない世界に触れるよい機会を与えることになったと思います。
- ・私どもの家族だけかも知れませんが、父親の仕事を子どもに話すことは余りなく、子どもも実際にどんな仕事をしているのか理解していないかったと思います。今回のこの調査で少しは分かったよう感じました。子どもが小さいときに一度職場に連れていったことがありますが本来なら中学になった今の時期にもう一度見せておくのも…と思いました。
- ・私自身の「人間性」「生き方」を反省するきっかけになったと共に、若い世代と互いに真剣に「人間」について考え合う機会になり有意義でした。今後も生徒の変容を見たいものだなと思います。

④訪問調査に対する批評

- ・授業・訪問の目的意識がまだ十分育っていない気がしました。中学1年生では（個人差がありますが）ちょっと難しいかなという気がしました。
- ・伝えたいことが十分に伝わらなかったかも知れないのが少し残念ですが、前向きに聽こうしてくれていたと思います。総合人間科の授業が生徒に何を与えていくものなのか興味があります。
- ・質問の目的と結果が明快さに欠けているように思う。回答に対し質問者の意見なり、感想なりがあつても良いのではないか。又、質問者と第三者の立合（友人同志の組）で訪問した方が深い意見や見解が得られるのではないでしょうか。いずれにせよ父親の仕事場を見ることはとても大切なように思います。
- ・生徒に生き方考え方方が理解できたとはとても思えません。それだけの質問内容が無かったように思います。

⑤総合人間科に対する要望

- ・質問内容はよく分かりましたが、こちらの答えたことをどう理解したかを知りたいと思います。調査の結果中学生はどのような生き方を望んでいるのか知りたいと思います。これからも生徒はいろ

いろんな人の話をいっぱい聞いてほしい。

- ・世の中さまざまな人間がさまざまな価値観を持ち、生きていくことを目で見、耳で聞き、いろいろな人と接することにより、自分（各生徒）の現在持っている考え方を再認識し、また見つめ直すということは大変有意義な体験になると思いました。
 - ・「総合人間科」、はじめて聞く言葉でした。中学1年生としての考え方感じ方等、対話の中から学ぶチャンスがあることを大事にして結論でなく何かをみんなでつかんでもらいたい。
 - ・新しい科目でどういうことをする勉強なのか興味津々でした。一瞬大学のゼミのようなことかなとも思いました。沢山の人に直接お話を聞くだけでも、一つの貴重な機会としておもしろそうです。できれば単発の質問の羅列でなく、ゆっくり話をするという中から何かとらえていってくれればいいと思いました。
 - ・幅広い分野について学習するよい機会を与えて下

Poco a Poco

先週の金曜日にフィールドワークを行い、すでに1週間がたちました。今回も相手の方に簡単な評価をしてもらいました。中にはみなさんの取り組み方に感心して、将来自分の子どもでも名前大附に入れたいくと評価していた方もありました。全体的には評価でしたが、もう少し事前に調べをしっかりとから来てほしかったとか、あいさつの仕方について指導してもらいたい必要があるのではないかと感じました。この点は難題に反省して、今後のフィールドワークでより取り組んで行ってもらいたいものです。来週の木曜日の総合人間科の授業でのまとめがスムーズに行くようしっかりと準備しておいて下さい。保護者の方でご都合がつきましたら、積極的に授業参観をして下さい。

今年度の夏休み校内読書感想文コンクールの入選者の発表がありました。
【A組】 小川さおり 「知子子」読了 奥田ゆかり 「野球の日」読了
水野可菜 「形のうどん」読了 西村麗奈 「はいがいひがい」読了
【B組】 木全優 「おとぎ話」読了 鈴木由美 「海のひと」読了
谷口潤一郎 「魔女」読了 平松幸代 「王」読了
古川玲奈 「駆け出せ!」読了 増田知恵美 「恋のうれしいひがい」読了
なお、平松さんの感想文は賞のコンクールに採用されます。みなさんおめでとうございます。

次回はがんばりましょう。人頭部想文については折をみて掲載していきたいと思います。

来通の予定

11/25(月) 2学期期末テスト時間割り発表

28 (六)
27 (五)

卷之三

28 (參)

30 (上)

卷之三

卷之三

卷之三

***真の未テスト 文部省式**
時間割りは月曜日に発します。各教科のテスト範囲は各授業で聞いて下さい。
国語 雅語は漢字の書き取り練習を徹底的にする。教科書は何回も読む。
（筆部）文法をたどひたすらに覚える。プリントは何回も読み直し内容を頭にに
き込む。そして作者の言おうとしている事を考える。
地理 地図帳をよく見ておく。今回は少し細かい部分も出題する。
歴史 教科書、ノートを何回も見なおす。授業中の話をよく思い出しておく。
数学 問題集を何回もやり直すことに。テスト当日宿題ノートを集めめる。
理科 教科書、ノートを何回も見なおす。授業中の話をよく思い出しておく。
英語 教科書の英文を時計するぐらい覚える。単語、基本文を確実に書けるようにする。
家庭 教科書、ノート、プリントを何回も見直しておく。
保健 教科書の中の話をよく思い出し、教科書、ノートを何回も見直しておく。

さっていることと理解しました。自分の考えを持つこと、それを口頭や文章で表現する機会を多くしてほしいと望んでいます。

以上のように、率直な意見が多く、生徒の活動の成果や総合人間科全体に及ぶ感想、批評、要望をいただき、教師にとっても大いに参考になった。

1年生のまとめとしては、身近な人から見知らぬ人へ対象とする人を変化させて、コミュニケーション能力の向上を試す課題を設定した。地域へ飛び出す試みへの挑戦は、対象とする人の選択からはじまった。個人での課題解決ではなく、グループによる課題解決というグループ内のコミュニケーションが重視され、役割分担をして見知らぬ人とのコミュニケーションが始まった。身近な人と見知らぬ人の違いは、大きく生徒に影響し生き方や考え方につながる。いかなかつたグループもある。

フィールドワークを終えての感想

☆春香謡歌譜 (水谷夏樹)

展示室に行った時はおもしろかった。特にセセ時計がとてもおもしろかった。ほしかった。また競輪があるたまらう一度行きたい。話の中では特に「やせるせっけん」「ニセブランド」に興味を持った。やせるせっけんと倉庫が一杯になってしまって燃したという話はもつたらないと思った。ニセブランドはローラックスの時計などはほとんど愛していないものもあるあつたし、ちばるする子ちゃんはめちゃめちゃだったり、こんなものもあるんだと思った。絶滅動物はとても大きいであつたがわかいそうだった。例え研究目的であつても運れてこられる動物はわいそうだなと思った。初めはどうなるかと思ったけれど楽しく出来てとてもよかったです。税闘は税を取るだけと思っていたけど、行ってみて麻雀などから僕たちを守ってくれていることがわかった。どうもありがとうございました。

がった。どうもありかどうこと、ま
た監視をぬきに監査（武蔵直樹）

「この人は寝たきりで、血のめぐりが悪くなってしまって、皮膚が腐ってしまった。」質問する前に、案内してくれた先生が老人の前におっしゃいました。私達はあまり病状のひどさに目をおいていそうになりました。だって背中に大きな赤くふくれたかいようができていたから、「癌をとるってこういうことなのよ。おそろしいねわ。」先生はまた言いました。私達の行った名古屋のいい病院は、老人だけが入院しているところで、あまり病状のひどい人は来ていません。(さっきのかいようの人がひどい方くらい) 親容されている人の天半が一人暮らしで夫婦2人きりの生活で「食べる」という普通の人に当たり前の行動ができないのだそですか。イスにすわれない人、排せつ物を自分で整理できない人もいます。私達はそこで働く人の仕事の大変さは、行く前ほど分かっていました。ただ世話をすだけという風にとらえていたのです。しかし先生がどのようなことをしているのかを視察しました。するとどの先生も老人と楽しく会話をしていましたのです。話すというだけでなく聞くということなのです。私はどんな人でも話を聞くは大切なことだと思いました。実際に先生は話を聞いていたからにはうな性の老人の病状がグングン良くなったりもいると言っていました。まとめとして、先生方はこうおっしゃってくれました。「生きててよかった。生きててうれしかったという世の中や病院にしていき、入院中の苦痛をなくし楽しくしていきたい。」私も一回看護の仕事をやってみたいなど初めて思いました。

☆北朝の御用達洋服はなんを翻訳して（森口朝比）

初めて会った時は、だいぶ緊張してしまいました。質問内容に合わないかもと神野さんは心配してくれましたが大丈夫です。私が陶磁資料館を訪問した理由は戸戸戸物に限らず焼き物が好きだからと、陶芸作家たちはそれにかかわる仕事につきたいからです。正直言うと朱矢先生がいたから、聞けなかった質問があります。「今の仕事が好きですか?」なんかちょっとといやもっぱいかなと思って言えませんでした。将来同じ職業につくかもしれない(?)私は、とても聞きたい質問でした。展示してある作品はとても興味持らしかったと思います。私も作つたことがあるので、どれだけその作品がすごいか普通の人よりは分かります。特に「作品78-9」というのと「ギン・オリバ 笑口劇行版」「夜は駄けて」「チャエルノブイリシリーズ」の衝車のついたものは良いと思います。「夜は駄けて」の小さなとぎはどうやって作ったのでしょうか。時間ががあれば全部の作品をもっとゆっくり見れたかったです。

☆新規登録ねむ（珠井隆哉）

僕は訪問先の坪屋のこととは自分でいたい事は分かっていたつもりでした。しかし、訪問して坪井幸夫と職人さん達に話を聞いてみたら、僕のまだ知らなかった事が次々出てきたので驚いてしまいました。そこで僕はこれからまだ知らない事やなぞがあるかもしれませんので、どんどん畠屋のなぞを知りつくしたいと思いました。

